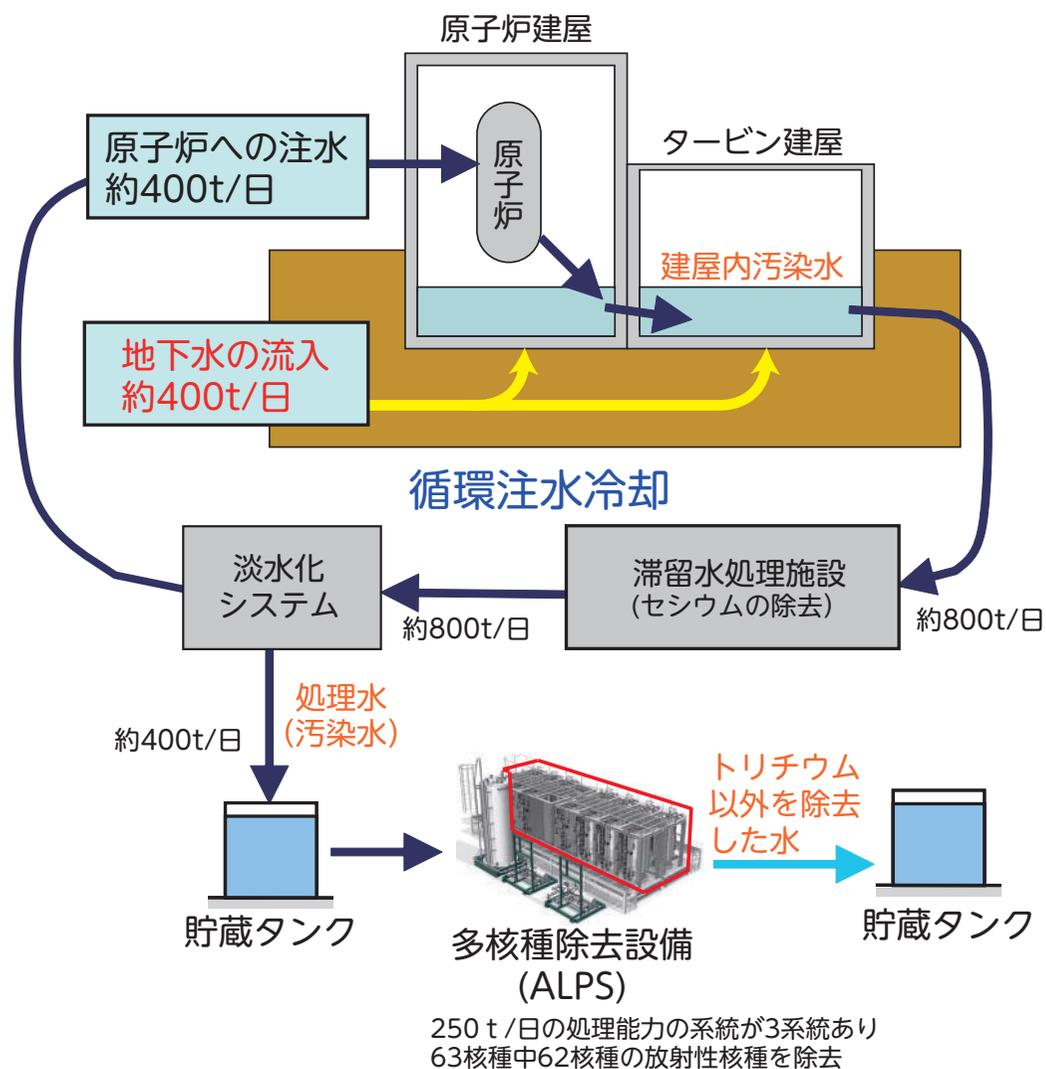


福島第一原子力発電所の取り組み状況について

福島第一原子力発電所の汚染水処理等について引き続きご心配をおかけしておりますことを、改めて深くお詫び申し上げます。廃炉に向けた最新の取り組み状況についてお知らせします。

原子炉の冷却と汚染水の状況

- ◆原子炉を冷却するために、建屋から取り出した汚染水を処理し、1日あたり約400トン原子炉に注水する循環注水冷却を実施しています。
- ◆建屋の中に1日約400トンの地下水が流入しており、汚染水は1日約400トン増え、構内の貯蔵タンクに貯蔵しています。

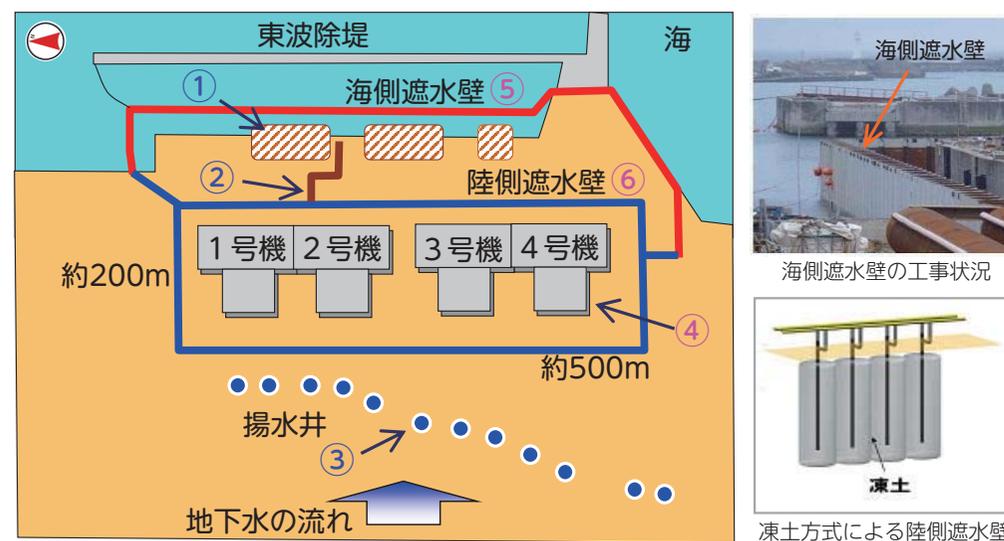


汚染水への対策

- ◆汚染水の発電所港湾への流出やタンクからの漏えいなどを受け、8月26日に「汚染水・タンク対策本部」を設置しました。
- ◆「汚染水を漏らさない」「汚染源に地下水を近づけない」「汚染源を取り除く」という3つの基本方針に基づき、政府・関係機関と協働し全社を挙げて全力で取り組んでいます。

緊急対策

- ・汚染エリアの地盤改良・地下水くみ上げ・地表舗装 近づけない 漏らさない → ①
- ・トレンチ（配管などを通す地下の空間）内の高濃度汚染水を除去 取り除く → ②
- ・建屋の上流で地下水を揚水井からくみ上げ 近づけない → ③



抜本対策

- ・建屋周辺からの地下水くみ上げ 近づけない → ④
 - ・海側遮水壁で、海洋への地下水流出を抑制（来年9月完成予定） 漏らさない → ⑤
 - ・凍土方式による陸側遮水壁で建屋内への地下水流入を抑制 近づけない 漏らさない → ⑥
- （来年度中の運用開始を目指す）

緊急安全対策をとりまとめました（11月8日）

- ◆ 廃炉作業や汚染水・タンク問題対策の加速化・信頼性向上のために、緊急に取り組むべき安全対策をとりまとめました。
- ◆ ハード面、ソフト面および現場のモチベーション向上に関する総合的な対策を優先順位をつけて迅速に実施します。

労働環境を抜本改善します

- ・ 全面マスクなしで作業できるエリアの拡大
- ・ 新しい事務棟、1200人を収容できる大型休憩所および敷地の近傍に給食センターの設置
- ・ 敷地内で働く作業員の方の労働環境を整備



全面マスク着用による作業例

設備を恒久化します

- ・ 新中央監視室を設置し、集中管理能力を向上
- ・ 電源設備の新設・増強
- ・ 構内の道路、給排水設備等のインフラの整備
- ・ 廃棄物処理・保管設備を地元の皆さまと調整しながら設置

汚染水を適切に管理します

- ・ 社内外総動員体制により汚染水・タンク対策関係要員を220名増員
- ・ 現状の汚染水貯留量は約37万トン、貯蔵容量は約41万トン
平成27年度末を目標に貯蔵容量を約80万トン確保
- ・ 信頼性の高い溶接型タンクへの更新（平成27年度中を目標）



フランジ型タンク



横置きタンク



溶接型タンク

- ・ タンク周りのパトロールの強化（1日4回、のべ120人／日）
- ・ 多核種除去設備（ALPS）の増強（来年度中にタンク貯留の汚染水を浄化）
- ・ 汚染水タンク周りのせきのかさ上げなど（汚染した雨水の海への流出防止）



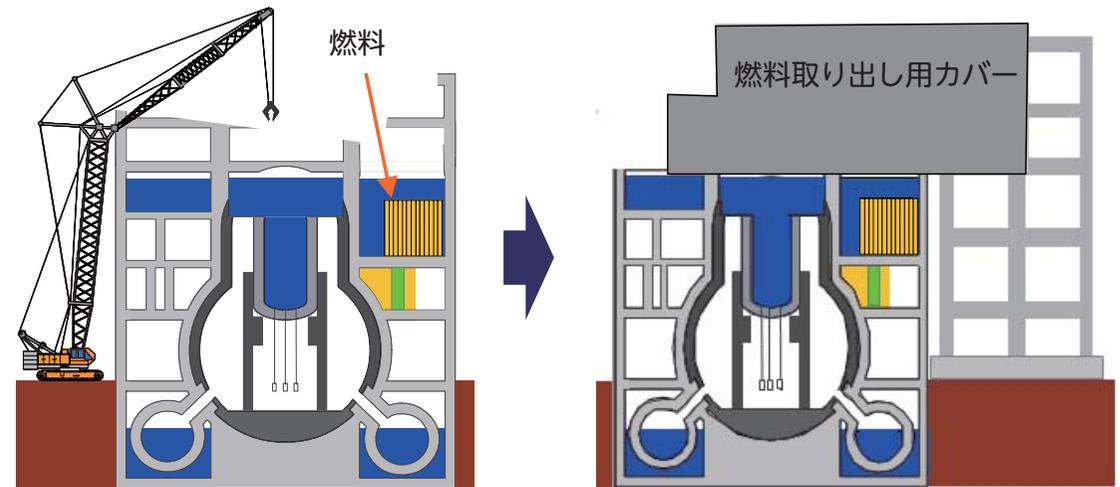
タンク周りのパトロール



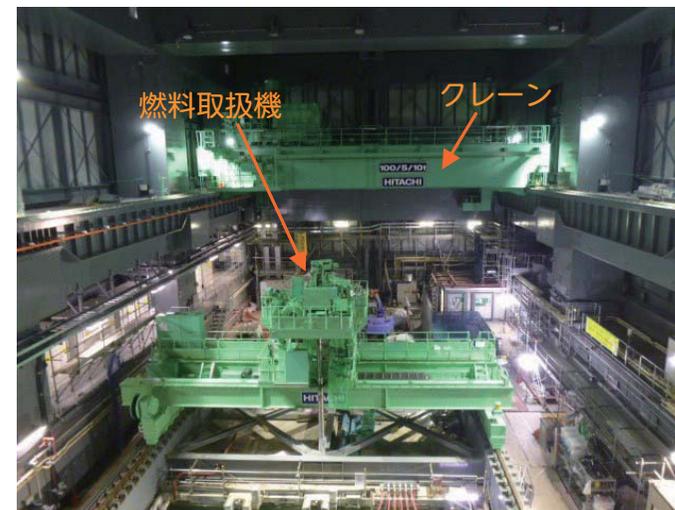
せきのかさ上げ例

4号機からの燃料取り出しを開始しました（11月18日）

- ◆ 損傷した原子炉建屋を燃料取り出し用カバーで覆い、健全なプラントと同じ多重性を有する燃料取り出し関連設備を設置しました。
- ◆ 11月18日より原子炉建屋内の使用済燃料プール内にある燃料（1533体）の取り出しを開始し、より安全な敷地内の共用プールへ移送中です。
- ◆ 原子炉建屋における輸送容器の吊り降ろし作業は、弊社でこれまで1200回以上繰り返してきた、十分に経験がある作業です。
- ◆ 来年末頃までの完了を目指します。



原子炉建屋上部のがれきを除去し、大量の鉄骨（4200トン）による強固な燃料取り出し用カバーを構築してクレーンなどを設置



燃料取り出し用カバーの内部



燃料の取り出し

4号機からの燃料取り出しは、廃炉作業の重要なステップの一つと考えており、安全かつ着実に作業を進めてまいります。